

県庁舎基本構想のアイデア 提案内容

県庁舎基本構想に関するアイデア 目次

番号	居住地域	年齢層	性別	ページ数
1	長崎市	50	男性	1
2	長崎市	—	男性	1
3	佐世保市	70	女性	2
4	長崎市	50	男性	2
5	兵庫県	70	男性	3
6	諫早市	60	男性	3
7	未記入	—	—	4
8	五島市	30	女性	4
9	五島市	50	女性	4
10	南島原市	30	男性	4
11	新上五島町	40	男性	5
12	埼玉県	40	男性	6
13	五島市	50	男性	7
14	山形県	50	男性	7
15	諫早市	60	男性	7
16	長崎市	40	男性	8
17	対馬市	30	男性	9
18	福岡県	30	男性	9
19	長崎市	30	女性	10
20	東京都	50	男性	10
21	大村市	70	女性	11
22	兵庫県	70	男性	12
23	諫早市	40	男性	12
24	諫早市	40	男性	13
25	新上五島町	60	男性	13
26	長崎市	30	男性	14
27	長崎市	20	女性	15
28	長崎市	20	女性	15
29	長崎市	40	女性	15
30	新上五島町	40	男性	16
31	長与町	30	女性	16
32	長崎市	50	男性	17

県庁舎基本構想に関するアイデア 目次

番号	居住地域	年齢層	性別	ページ数
33	長与町	40	女性	17
34	佐世保市	40	男性	18
35	長崎市	30	男性	19
36	雲仙市	30	女性	19
37	長崎市	50	男性	20
38	長崎市	50	男性	20
39	長崎市	50	男性	21
40	長崎市	40	女性	21
41	長崎市	30	女性	22
42	長崎市	60	女性	23
43	南島原市	40	男性	24
44	長崎市	40	男性	24
45	島原市	40	女性	25
46	長崎市	40	男性	25
47	諫早市	40	女性	26
48	五島市	20	女性	26
49	松浦市	40	男性	28
50	長崎市	30	男性	28
51	佐世保市	30	女性	29
52	波佐見町	60	男性	29
53	長崎市	70	男性	31
54	兵庫県	60	男性	31
55	壱岐市	70	男性	31
56	長崎市	40	男性	32
57	長崎市	50	男性	32
58	福岡県	30	男性	33
59	佐世保市	20	女性	33
60	佐世保市	30	女性	34
61	南島原市	30	男性	34
62	南島原市	30	男性	35
63	長崎市	40	男性	35
64	佐世保市	30	女性	36

県庁舎基本構想に関するアイデア 目次

番号	居住地域	年齢層	性別	ページ数
65	長崎市	50	女性	36
66	南島原市	40	男性	36
67	五島市	30	男性	37
68	大村市	60	男性	38
69	佐世保市	40	女性	39
70	長崎市	40	男性	39
71	長崎市	20	女性	39
72	諫早市	20	男性	40
73	長崎市	60	男性	40
74	長崎市	20	男性	41
75	諫早市	40	男性	42
76	大村市	40	男性	42
77	長崎市	50	男性	44
78	長崎市	50	男性	44
79	長崎市	60	男性	45
80	大阪府	40	男性	46
81	雲仙市	30	男性	48
82	大阪府	30	女性	49
83	大阪府	30	男性	49
84	佐世保市	20	女性	50
85	佐世保市	20	女性	50

001 ■ 50代 男性 (長崎市)

- ① 唯一被爆県として、平和と、国際都市として発展する国際県を前に出した考えを基調とした姿であってほしい。
- ② 効率性は、現在のいろいろな会議、研修等をホテル、貸会場など一切利用せず、新庁舎活用。利便性は長崎駅を基点として、新庁舎との交通活用。防災防犯については、新庁舎屋上にヘリポートの整備、新庁舎前に交通と防犯の為の交番の新設。省エネについては、温暖化対策の為、緑豊かにして、CO2を排出していく。シンボルとして、高さ30メートルの平和の塔建設。
跡地活用について、県の中心地長崎市の中心場所として、広く県民の声を反映させ、次世代に役に立つ基本的な考え方。
又、活用策として、県民の憩いの広場、県内市町の名産、産直品を紹介した、県民センターの新設、等実現してほしいと思います。

002 ■ 年齢未記入 男性 (長崎市)

- ① 新庁舎のあるべき姿
 - ・ 行政棟はランドマークになるように、シンボリックな高層ビルとして、最上階に観光客や県民が憩える展望所やレストラン等を設けてもらいたい。
- ② 備えるべき機能
 - ・ 議会棟は低層にして、将来、道州制への移行を視野に入れ、コンベンション・国際会議や県民ホール等としても利用できる多機能施設にしてもらいたい。
 - ・ 地球温暖化対策が急務であるので、同じ時期に整備される隣接の駅周辺地区も含め、太陽光や海水などの多様な再生可能エネルギーを使った地域冷暖房などの機能の導入を図り、近代化遺産と併せて、東アジアからの観光客誘致にも寄与する、環境モデル地区となるようなゼロカーボンのまちづくりを行ってほしい。
 - ・ 現在の県立図書館は駐車場も狭く、アクセスが良いとは言えないと思うので、県立図書館を行政棟か議会棟に併設してほしい。
- ③ 景観への配慮
 - ・ 魚市跡地は長崎の中心市街地の中心に位置して、高台から見下ろされる場所であるので、民間建築の手本となるような屋上緑化やオープンスペースの緑化を行ってほしい。

- ・ 26 聖人殉教の碑がある西坂公園や新しくできる駅舎から海や女神大橋が見えるような建物の配置にしてもらいたい。

④ 周辺環境

- ・ 旭大橋は低床化にして浦上川右岸地区からのアクセスを改善してもらいたい。
- ・ 市役所方面から新県庁にアクセスしやすくするために、中央郵便局横の道路を拡幅整備してもらいたい。
- ・ 路面電車を駅のトランジットモールから延伸して、新県庁敷地内を經由して、五島町電停へつなげることにより、市内循環が可能となるので、是非、実現してもらいたい。

003 ■ 70代 女性 (佐世保市)

NHK ホールとまではいなくても開かれた見学コースと窓越しに職務を見学する機会を与えて下さい。観光の一環として県民を招いて下さい。

トイレが男性一列5個設置するなら女性は二列10個は設置して下さい。

今日もプールに行ったけれど、男性ロッカーは空いてるけど女性は待たなければ入れない状態。どこへ行っても女性が人口では多く参加意欲が旺盛の様ですから。

長崎市の人や要職にある人は地理にも詳しく、すぐ行けるでしょうが、見学したくても、どこ行きの電車かバスかも判らない田舎者もいることを考慮して地理的・交通の点も判り易く明示して県政だよりをお願いします。

投票でも知事さんとなると遠い存在なので東国原さんとまでいなくても投票のみばかりでなく親しめる様なイベントなど県政でボランティアで公園も大歓迎です。

004 ■ 50代 男性 (長崎市)

総合的かつ次世代のための、未来の長崎県にふさわしい建物にしてほしい。また、地球温暖化が進んでいますのでCO2を排出する機能をもった建物、又まわりの施設も緑化にこだわって整備してほしいと思います。

また開かれた県政を推進するため県の業務する場所のほか県民の会合できる場所の設置をしてほしいと思います。

現庁舎の駐車場はないに等しいぐらいの面積しかないので、新庁舎はできるだけ広大な、

駐車場を建設してほしいと思います。ようするに県庁舎整備の基本は県民に広く開く場所として建設してほしいと思います。

005 ■ 70代 男性 (兵庫県)

① 新庁舎に求めるもの

新庁舎建設予定地、長崎魚市跡地の総敷地面積58000㎡の中、県庁舎予定地30,000㎡。は長崎新駅舎にも隣接されて居り文明(文化)都市長崎、海洋都市長崎に相応しい場所として誠に最適地で有ると考えられます。

又、大波止にも隣接されており離島との連絡、行政運営にも最適と考えられる。

残余敷地28000㎡を利用して隣接県民ホール(多目的交流ホール)を建設し観光立県として県民及び全国民にも広く活用の場を提供する。

② 新庁舎が機能としての施設や設備等

(イ) 長崎県は離島も多く又漁業関係者等の事故防災、救援に対し屋上ヘリポートは絶対に必要と考えられる。

(ロ) 駐車場スペースを十分に確保すること。

(ハ) 非常用飲料地下タンクを設置すること。

006 ■ 60代 男性 (諫早市)

● 県庁舎の外観は、長崎県民を思いを託したものが相応しいと思います。断じて単なるコンクリートの塊であってはならない。例えば、長崎県民の悲願である平和を象徴するものとして「鶴」、「歴史・文化の交流の窓口として、世界に羽ばたく鶴の港」をイメージしたものなど何処から眺めても、海(船)や陸(鉄道)の発着地にマッチした、長崎の歴史と文化の薫りがする、落ち着いた・どっしりとした長崎ならではの建造であってほしい。歴史的に残る建物にしてほしいと思います。

予算内での建築が要求されていると思いますが、何としてでも長崎県の英知を結集して「建てて良かった」と思えるものにすべきです。

●出来るだけ県産木材・石材を使用してほしい。

●県内各地産の樹木に囲まれた「県庁の森」を創ってほしい。

●交通アクセスを整備し、観光スポットになるような工夫も必要です。

007 ■ 年齢・氏名ともに記載なし

県庁の完成予想図を新聞で見ましたが、あんな箱ものがっかりしました。
長崎は観光地であります。
外観だけでも、長崎らしく出来ないでしょうか？
古い時代には、素晴らしい県庁舎があっただけに、それに近い建物にすれば、観光にも役に立つと思います。
道州制も考え、必要最小限の施設での建設を望みます。

008 ■ 30代 女性 (五島市)

長崎県庁は建物も古いので、県を代表する庁舎として新しく近代的で、県民が気軽に行けるような建物に早く建て直して欲しいです。

009 ■ 50代 女性 (五島市)

県庁舎は建物も古いので、長崎県のシンボルになるような建物を早く建設して欲しいです。

010 ■ 30代 男性 (南島原市)

基本的なものです・・・

1 バリアフリー

(追記・・・佐世保から世界に認められている手すりの導入(波状の手すり))

2 総合案内所の1Fフロアへの設置

3 太陽光による発電設備の導入

4 オール電化

5 エスカレータを導入し、上り下りする際、職員の勤務が見えるような解放的な作り

6 天井を高くする

7 県内各市町の説明(PC等)ブースを設置し、市町とリンクする。観光のみならず、様々な県と市町との施策を橋渡しする場としても良い。市町からの出向職員等で組織する。

- 8 土日も一部開放出来るスペースを作り観光振興や特産品の販売が出来る様にする
- 9 あまり奇抜な外観デザインにはしない
- 10 知事の部屋は 1 階に配置し、県内外各地への移動の時間を省くと共に、県民と少しでも触れあう機会及び親近感が湧く様にする（やはり高い階に知事室があれば、会社の社長や重役等みたいに感じる。）
- 11 エレベータは職員用、一般用と分ける。一般用は景色を眺めることが出来るような作り。
- 12 屋上を開放し展望出来るようにする。

011 ■ 40代 男性 (新上五島町)

執務室だけでなく、議場等の主要施設についてもレイアウトを自由に変更できるなど、各建物が高い汎用性を備えること。

(理由) 道州制や権限委譲の議論がどのように進むか不透明な中、また、ますます進むであろう高度情報化という観点からも、長崎県庁が将来にわたって今のままの姿であり続ける保証はありません。

これから建設しようという新県庁舎は、極端な話として、県が無くなる可能性まで視野に入れ、その際にも有効活用が容易にできるような構造を備えているべきと思います。

(例) 執務室：間仕切りを無くす。

県議会議場：議場としてしか利用価値がない独特の構造で建設することを避け、多額の費用をかけずとも、ホール等に変更できるようにしておく。

012 ■ 40代 男性 (埼玉県)

1. 長崎県庁の所在地について

私が宿泊したのは長崎バスターミナル側のホテルでしたが、地図を見ますと、その周辺に県庁の本庁舎が在ることを知りました。

思うに、長崎に来る観光客の殆どは飛行機を利用し、リムジンバスかタクシーで市内に入ると思うのですが、そのような観光客の出入口となる場所には庁舎ではなく、

より観光客相手の施設を充実させた方が良いのではないのでしょうか。

また、懇話会の資料を拝見しますと、県庁施設が所々に分散してしまっており、県の機能が十二分に発揮できない環境にあると考えられます。

そこで、庁舎を新たに建設する際には、現在の場所に再築するのではなく、県民の便を考慮しつつ、県の仕事に従事する方達が、横の繋がりや縦の繋がりを十分に発揮できるよう、ある特定の他の場所に総合県庁施設を設置すべきと考えます。

2. 庁舎跡地の具体的な有効利用について

出島は、「長崎と言えば“出島”」といわれる程有名ですが、私が観光した感想としては、実に中途半端な扱いを受けていると思いました。確かに、出島は昔からあの場所に存在していたのですが、長崎の都市開発が進んでいるにも拘わらずあの場所だけを中洲のように取り残してあるのは、観光客としては今一つの感じを受けました。

そこで、観光客やこれからの長崎県を背負う子供達に、出島が日本でどの様な役割を果たしてきたのかを教えるためにも、出島を庁舎跡地に移設し、庁舎跡地を歴史的に有効活用すべきと考えます。

013 ■ 50代 男性 (五島市)

新しい県庁舎の建設を希望します。

014 ■ 50代 男性 (山形県)

長崎県のシンボルとして駅に降り立ったとき、あるいは長崎上空を飛ぶ飛行機の機内から一目瞭然として解るような建物であってほしい。

長崎駅から歩く歩道に乗るかのように自然に行けるような通路が通じてほしい。

平和を大切にとの思いから、長崎の鐘を正面に設置してほしい。

将来はより一層省エネが叫ばれてくることが予想されるので熱効果のいい構造にするとともに、太陽光を十分に取り入れ採光をよくし、更には太陽電池パネルを設置するなどして自家発電に力を注いでほしい。

屋上は展望台とし、長崎市内在が360度見渡せるようにするとともに、庁内に地元産の食材を主に使用したレストラン、県内の名産品を集めた物産館及び県内観光を推し進めるための観光ブースを配置してほしい。

建設地が海岸に近く、高潮等の想定もしなければならない。

また、県庁舎には防災拠点としての位置づけも必要である。

そこで、次の点を注意する必要があると考える。

●防災拠点で必要な電力の確保を行う。

このために、電気室の重耐震化はもちろん、浸水の恐れがある地下に電気室を計画しない方が良く考える。

ただし、電気室のメンテナンスや機器交換の手法も設計段階で考慮しておく必要がある。

●災害時電源の確保。

災害時の停電を想定し、非常用発電機はもちろん、コンピューター用の無停電装置は設置すると思うが、装置のバックアップもではないか。つまり、無停電装置は二組以上必要であると考え。

ただし、県庁舎にあっては、周辺への騒音、振動対策を充分考慮する必要がある。

次に、省エネルギー対策であるが、当然、現在主流の太陽光発電も計画すると思うが、過度の設備は必要ないと考え。

景観に配慮した箇所、昼間の電力の一部をまかなえば良いのではないか。

新技術の発電装置等もあるが、導入には十分な検証が必要である。(事例：潮力発電等)

最後に、県庁舎として周辺環境への配慮はもちろん、長崎市の財産である稲佐山からの景観にも配慮する必要がある。

その為には、屋上の設備機器配置に特段の配慮が必要となる。

単に、機器を配置するのみでなく、配置した機器が眺望に与える影響を検証しながら設計を進める必要がある。

また、電気室の部分でも触れたが、新県庁舎は地下に機械室等が取りにくい立地条件であり、地上階の何階かを、設備関連の設置階とする手法もある。

ワンフロアを全て設備機器設置階とすれば、騒音・振動対策や高潮対策等がやりやすくなるし、来庁者等への安全対策にも繋がるのではないか。(エレベーターを止めない階にする。)

●新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等

県庁は、一般の市民や県民にとっては、敷居の高いなじみの薄い役所であるので、幅広い年齢層の方が気軽に出入り出来る（したくなる）施設となるように、以下のものを備えてみたらどうでしょうか。

●長崎駅との連絡通路やバスや市電などの公共交通機関の引き込みなどで、アクセスしやすいものにする。

・高齢化社会の対応のために、とにかく行きやすく帰りやすい「足」を確保する必要があります。長崎の人は歩くのが嫌いです（ちょっとした距離でも遠いと感じて歩こうとしないです）。

●県立図書館の分館として、児童や生徒が利用できる図書館を併設する。

・一般の図書と同時に、長崎県内の自治体の行政情報等を一覧、検索したり、県政の動きを分かりやすく伝えるコーナーなどを設けて、県庁に行けば県内の情報がすぐに、気軽に手に入るようにして欲しいです。

●子育て支援の一環として、託児所やこどもが屋内で遊べるフリースペースを設けて、運営は民間（NPO など）に任せる。

・駅前の託児所は、非常にニーズが高いです。
・AIGでの活用されている子育て支援スペースは非常に人気があります。

●県産品フェアを年間通じて開催できる市場を設置する。

・魚市跡地であるので、県産品のなかで特に新鮮な魚介類を直接県庁の前で水揚げして、その場で販売出来るようにすれば、PR効果も大きいのではないのでしょうか。

●玄関ロビーは県内の食材を利用したレストランを設置する。

・海沿いにあるので、屋外テラス席も設けた開放的で気持ちのいいレストランがあると、それだけで行ってみようという気になります。

●庁舎前の広場は、おくんちの練習ができる場所（石畳）と踊りを披露できるようにする。

・県庁舎移転に反対している方々の懸念を、少しでも和らげる効果もあると思います。

●若者が利用できるライブハウスや、演劇が上演できる小劇場を設置する。

・長崎市内にはライブハウスはありますが費用が高いです。また演劇が上演できる小劇場はありません。

017 ■ 30代 男性 (対馬市)

一般の県民は、市町村役所へ行くことは多々あると思いますが、何か事業等をしていない限り、県庁へ用事がないというのが現状だと思います。

「何か敷居が高い、警備の人がいて入りにくい、用事がない」というのが一般のイメージであり、今回の県庁舎整備計画は、多くの県民に県庁を知っていただくいい機会ではないかと思います。風通しのいい県庁づくりを進めて頂きたいです。

また、観光県長崎の1つの観光資源として活かすことも求められることではないかと思います。

県庁設備の事になりますが駐車場不足についての指摘があっているかとは思いますが、今は環境の時代です。必要最低限の駐車場の確保は必要であるとは思いますが、公共交通を利用することの意識付けのため、不用な駐車場は作らないという考えのもと進めて頂きたいと思います。

018 ■ 30代 男性 (福岡県)

世界的な共通問題として地球温暖化への対応が求められる今日、環境問題への取り組みが盛んで豊かな環境資源と技術を有する長崎県としては、新庁舎の建設にあたり、庁舎内で利用される電気については、可能な限り、太陽光発電、風力発電、食品残さなどのバイオマスエネルギーなど再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）を利用すべきだと考えます。

また、同時にBDF（家庭から出る廃油）などのリサイクル資源を回収する拠点機能を有することで、低炭素・循環型社会の構築に向けたシンボリック施設となることを望みます。

このため、新庁舎の建設に当たっては、

- ・現在の建物を極力活用する。
- ・リサイクル素材を使用する。
- ・長寿命素材、工法により、ライフサイクルコストの低減に努める。
- ・壁面、屋上緑化を行い、都市緑化のシンボリック施設を目指す。

などの検討が必要であると考えます。

被爆地として、世界に核廃絶のメッセージを発信し続ける長崎から、世界に向けたもう一つのメッセージとして、低炭素・循環型社会の構築・環境保全を訴えることは、とても重要で意味があることと考えます。

019 ■ 30代 女性 (長崎市)

長崎の松ヶ枝は日本でも有数の大型客船の接岸出来る港であり、近年多く来航してきていることや、長崎帆船祭が開催されていることなどふまえると、外観は大型客船を思わせるデザインにすることで、観光客にも喜ばれると思うのですが。

港の玄関口によその土地と同じような個性のない建物はさけて欲しいと思います。

020 ■ 50代 男性 (東京都)

1. 現庁舎位置の特質

これまで現庁舎は県土の中心として県下各地からの訪問者をしっかりと迎え続けてきたわけで、交通網・公共交通は県民・市民のアクセスに至便なようにすでに完成されている。

2. 地元商店街の不安

地元江戸町商店街からは、県庁移転に伴い、まちの活力が衰えるとの不安から強い移転反対の意見があった。この不安への対処は、商店街サイドの自助努力を促すことによりこれを払拭するほかには手がないと思料される。

021 ■ 70代 女性 (大村市)

JRを利用して長崎駅に着いた時、人々は先ず県庁を訪ねます。日本の西の端、長崎は全国の人々には遠い所だと思われています。しかし、あと10年もすれば新幹線も開通し、人々の往来も増えるでしょう。

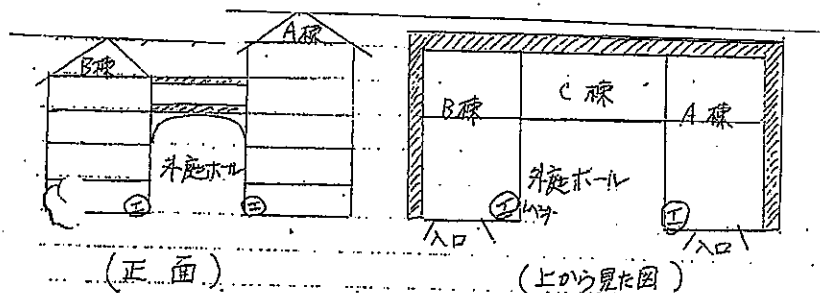
その時、誰にでも誇れる県庁であってほしいと思います。

人々が集まる所、見に行きたい所、魅力ある長崎の玄関口にしたいものです。幸い駅から近い所ですから、駅からの高架の歩道橋を造り、車椅子の人でも、視力障害の人でも、誰もが安易に安全に行ける県庁であって欲しいと願います。

もちろん、県の中心になる行政の役所ですから、会議も、用務も見学も陳情もできる広さと使い易さが必要です。長崎県は全国一離島が多く、出先きの役所も数多くあるので集まり易いことが第一条件です。

英知を集め100年の計に堪え得る立派な県庁舎ができますことを願うばかりです。

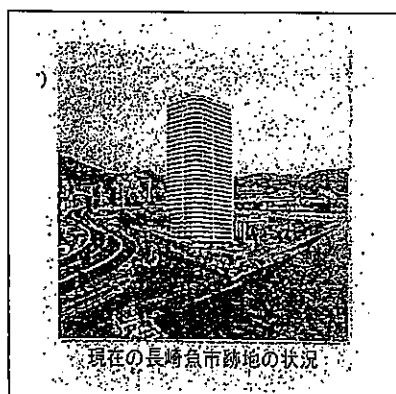
- ※ エレベーターはガラス張りで外が見えるもの。
- ※ 外庭ホールは2階部分に天井のポリウレタン等をはり、多目的に使用するスペース
- ※ 3階4階に空中通路
- ※ 周囲にグリーンカーテン用の花壇
- ※ 階段は予算に応じて増減する



022 ■ 70代 男性 (兵庫県)

① 新庁舎に求めるものについて (あるべき姿などの基本理念)

離れているから故郷に対する思いは強く、離れていれば故郷の事がよく見えるものです。新庁舎の構想については長崎魚市場跡地に建設する事については賛成です。長崎市の中心地で鉄道・船・バス等のターミナルも近く高層ビルを建てどこから見ても長崎県のシンボルとなる庁舎を期待しています。観光を売り出し中の長崎、水産県の長崎、新庁舎予定地は活性化に充分満たされると思います。私は2005年1月3日長崎新聞の新春座談会で、是非、軍艦島などのクルージングを提案しましたが此の度実行される事になり喜んでおります。新庁舎の完成を楽しみにしています。



023 ■ 40代 男性 (諫早市)

【県庁舎整備】

<目標：県民に近くて便利な「緑の県庁」>

長崎県の場合はズバリ県庁は県央地区に存在することが、理に合っている。
県央地区とは大村だけではなく周辺の諫早や東彼杵も対象とし、その中から
最適な場所を選定する。

<理由>

・すべての県民に対して現実的に近いところである必要がある。

(職員の家に近いことが必要要件ではない)

- ・県庁所在地は人口の多い都市である必要はない
- ・特に離島とのアクセスが重要（航空機によるアクセス「五島・壱岐・対馬」）
- ・高速道路や新幹線（予定）の接続ノードが比較的近い場所を選定可能
- ・長崎市（県庁跡地と魚市跡地）は観光に重点をおいて、再開発をする
- ・地価が安い
- ・自然の緑を活かして「緑の県庁」または「山の県庁」を目指すことができる
- ・景観を活かすため、高層化しない

024 ■ 40代 男性 (諫早市)

【県庁舎整備】

<目標：海の県ながさきの「海の県庁」>

長崎県は海に囲まれている

旧魚市跡地に建設される場合は県庁の下層を水族館にする。

例えば地階から海の遊歩道を渡って対岸へいける。

その遊歩道からは数多くの泳ぐ魚が見れるようにする。

その魚は長崎港の必要区画を仕切って飼育・管理する

特に珍しい魚は必要ないと思います。

職員の皆さんも魚が泳ぐ姿を見れば、和んだ心で仕事ができるというものです。

県庁自体が観光地になる。

こんな素晴らしい事ができるなんて、何よりこれによって長崎の港の透明度がみんなの眼に入り、自然を汚さないという気持ちの啓発につながります。

025 ■ 60代 男性 (新上五島町)

世界的経済不況と云われている中、ご多分に洩れず、日本国中、不況のどん底に陥っている。

まして、日本の最西端に位置する長崎県、その中の離島である五島列島は急速な人口減、少子高齢化が進み、五年前の合併後の人口は四〇〇〇人減という、驚異的な過疎の進行状態に陥っている。

唯でさえ職難の中、一家の主は都会へ出稼ぎではなく移住し少ししか居ない若者は職を求めて右往左往、少しの年金での暮らしの親の脛をかじり、諦め切った顔つきでフリター続行中が現状で、国民年金どころか国民保険、町県民税さえも滞っている。

さて、そんな中での県庁移転、そして移転後の跡地活用方のアイデア募集であるが、先ず、現在の県庁所在の位置付から言ってもその地域の人口減（経済的希薄）に陥らないように考えなければならない、その為には、県庁が移転してもそれに代わる施設や集客（繁栄）が現状維持かそれ以上の希望の持てる（施設？）でなければならないと思う。

それと離島県長崎である以上、長崎港を起点とする長崎の離島である五島列島の経済効果も考慮しなければならない、そのこと自体が、観光県長崎としての繁栄であり、五島列島を観光の島として売り込むことが、長崎の経済高価でもあると考える。

新幹線導入が実現すれば、当然のことながら、集客数は上がるかもしれないが、その反面、日帰り客もそれ以上に増すと思われる。

長崎市や五島列島の泊数を増やすには時間の掛る離島に足を向けさせることが一番の経済効果で、それに伴い五島の雇用も促進できると思う。

兎に角、長崎県独自で生き抜かなければならない時代で、自活力を求められる時代、一致団結して頑張る以外にない。

026 ■ 30代 男性 (長崎市)

現在、地球環境問題や廃棄物問題の深刻化などを背景にして、住宅では政府が200年住宅構想を打ち出しましたが、県庁舎にもまったく同じ考えをあてはめるべきだと考えます。

今まで日本は、作っては壊すフロー消費型の社会でしたが、今後はいいものを作って、きちんと手入れして長く大切に使うストック型社会への転換が求められています。

幸い寿命200年超ビルの新工法（新構造システム建築）も開発されており、寿命が従来ビルの4倍に延びても10%アップで建築できるとの話もあります。イニシャルコス

トはかかりますが建築工法等は最新のものを利用すれば、長期スパンで見た場合、コストを抑え環境等にもやさしいものになると考えます。

また、長崎県の主要産業は観光でもあり、県の玄関口である長崎駅に隣接する場所への建設でもありますので、外観については、流行に左右されないもので、長崎の風光明媚な景観を壊さないような配慮が必要だと考えます。たとえば外観を石造りやレンガづくりにしたり、低層のビルディングにするなど。

たとえ遠い将来県庁舎として利用されなくなっても、別の用途で継続して利用でき 100 年後、200 年後まで住民に愛され保存を望まれるような場所、建物になることを切に望みます。

027 ■ 20代 女性 (長崎市)

新庁舎を駅の近くにすることで、県外から来た人にも目印となり、また交通の便も良いので職員も出張に行きやすいので、すごくいい場所だと思います。

県庁内でアルバイトをしていたとき、夏休みなどになると、小学生から県庁の職員はどんな仕事をしているか勉強をしに来たいとか電話が来ていました。

子供が勉強できる施設(図書館など)や、催し物などあれば、いいと思います。

028 ■ 20代 女性 (長崎市)

場所的に海に面しているので高さは高く建てて良いと思います。植樹をし緑化対策にも取り組んでほしいし新しい観光案内にも気軽に利用できるようなゲートとしてほしいです。

屋上の景観の良い場所は展望・飲食に利用して集客・来庁者数日本一を目指していただきたいです！

029 ■ 40代 女性 (長崎市)

② 新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等

庁舎利用者と勤務者の利便性と機能の向上、且つ、駅周辺地域への移転という立地条件の良さから、周辺施設利用者と勤務者も利用できる複合的な施設となって欲し

いと思います。

以上より、従来の金融・販売・飲食だけでなく、次のような機能の併設を提案します。

- ・ 来庁者、庁舎勤務者及び周辺施設利用者が利用できる託児所子育て支援センター
- ・ 十分な広さの来庁者用駐車場・駐輪場の確保と夜間・休祝日時の有料駐車場としての開放（駅周辺の休日の駐車場不足の解消になるのでは）
- ・ 庁舎、県警本部の見学コースなどの日常的な児童学習機能の確保
- ・ デジタルビジョン等での情報伝達（時間・緊急速報・県議会中継など）
- ・ 十分な資料保管スペースと情報公開（閲覧）システムの確保
- ・ 利用水循環リサイクル・太陽光発電や燃料電池などの新エネルギーの利用やゴミリサイクル、雨水利用、屋上・外壁緑化などのエコシステムの充実。
- ・ 大潮・多雨期の水害対策（防波堤など景観上不利なものは避けて欲しい）
- ・ 十分な広さの防災緑地と一本化したベイサイド歩廊や公開空地の整備。
- ・ 長崎検定有級者が常駐する観光案内窓口

030 ■ 40代 男性 （新上五島町）

県庁だけでなく、行政というのは「堅い」「怖い」イメージがあり一般の県民、町民が近寄りたいたいものです。そこで、民間を参入させ庁舎内に展望レストランはもちろん、映画館、プール、地下1階と1階はショッピングセンター2、3階は小学校なんていうのもどうでしょうか。福岡市の博多にある小学校は、学社融合が進んでおり、学校と公民館施設が融合していて、学校の廊下を買い物袋をさげたおばさんが授業中でも通っていて、地域みんなで学校を支えていました。庁舎も県庁マン、県議、県警の物だけでなく、広く県民が立ち寄れる施設（子供からお年寄りまで）を目指したらどうでしょうか。おそらく全国には一つも例がない県民の為の県庁舎として全国にPRできるのではないのでしょうか。どういうものを融合していくかは、今後更なる検討課題としながら、補助金の性質上ものすごく困難な作業になることが、現実的ですが、出来ないことを出来るようにすることも行政マンの手腕だと考えております。

決して豪華な庁舎は要りません。（県民は貧乏です）奇抜なアイデアで全国に打ってでてほしいものです。

031 ■ 30代 女性 (長与町)

県庁舎を国際会議場として活用することを提案する。500人規模の大会議場が1つ、100人から200人の中会議場が5つ、委員会用の小会議場が5つ必要な場合が多い。現在、設備が十分に整い、大人数を収容することのできる会議場がないため、ホテルを利用したり、小規模に抑えてブリックホールを利用するなどしている。

もし県庁舎を再活用することができるなら非常に条件が良いと考える。第1に、OA機器の設備、会議室などがそのまま利用でき、部屋数も多いだろう。第2に、ホテルや飲食店が多く、県外や国外の参加者が快適に過ごせるだろう。第3に、交通の便が良く分かりやすい。又、今の庁内に食堂があれば、会議中のコーヒブレイクやパーティーにも活用できるだろう。

国際会議が行われれば、多くの県外や国外のお客さんを長崎に誘致することができ、経済効果が大きく、県や市のアピールにもつながると考える。九州で国際会議が行われる場合、大きな専用会場がある福岡が候補に挙がるが、長崎は観光地として有名なので、設備さえあれば、十分に会議の誘致が可能と考える。煌びやかな設備は不要なので、ほとんどそのまま無駄なく会議場として再活用できるのではないかと。

032 ■ 50代 男性 (長崎市)

新庁舎の建物及び同地区の環境、景観デザインについて

- 1 建物：ガラス素材を主体とした機能性と透明感のあるデザインのものとし、空、雲、夕日、海、木々の緑を壁面に映し出せる美しい高層の建物群とする。(イメージとしては東京駅丸の内地区の建物群とその街路樹)
2. 同地区の全体デザインは水辺の森公園と同様のコンセプトで緑にあふれ又訪れた人に感動を与えるすぐれたクオリアの都市景観の創造を目指す。新長崎駅舎との連携も大切にする。
 - 1, 2を実現させるために広く世界に建築デザイナーを求めコンペ方式とし観光都市長崎の新しいランドマークとなりえる何処にもない世界に通用するデザインの質を求める。

033 ■ 40代 女性 (長与町)

市の中心部は特に道路の横断も歩行補助具を使用する者には介助者が居ても困難な場所が多いです。

それは道路だけではなく既存の建物もそうです。

既存の建物で後にバリアフリー化した施設内での移動は不便な箇所が多々あります。

今回の新庁舎では健常者は勿論身障者でも一人で出掛けられるような機能設備をお願いします。

034 ■ 40代 男性 (佐世保市)

●新庁舎に求めるもの

(1)基本理念

- ・道州制を見据え、将来的な活用が期待できる機能的な庁舎
- ・「まち」と調和し、必要最小限の機能が集積された利便性の高い庁舎
- ・緊急避難場所としての機能を有した安全性の高い庁舎

(2)具体的な要望

機能的な庁舎

長崎県の県庁舎は、本庁舎敷地内に第1～第3別館を有するものの、交通量の多い国道を隔て日生ビル、教育庁ビル、大波止ビル等関連施設が点在している。県庁は県の重要な施策を推進するところであり、県下市町からの訪問や国からの訪問視察等も多い。来訪者の滞在時間は限られているため、施設が点在することにより時間的なロスが発生している。

地域住民や来訪者が目的とする場所へ訪問できる時間を短縮し、本来の目的に対して十分な時間が確保できるよう機能的な庁舎を要望したい。

また、将来の道州制を見据え、道州制導入後にも空室となることなく、有効に活用可能な庁舎を要望したい。

●利便性の高い庁舎

- ・さまざまな交通機関とのアクセスがよく、特に道路渋滞等を気にせず十分な駐車場が確保できる庁舎。
- ・パスポート申請やそれに伴う証紙等の販売が簡潔にできる利便性の高い施設。
- ・高齢化の進展に備え、病院や銀行等社会的インフラに隣接した(若しくは取り込んだ)庁舎。
- ・各庁舎の施設の場所や役割等のインフォメーションが充実し、目的に応じた部署が明示され、来訪者に対してワンストップサービスを提供できる庁舎。

●安全性の高い庁舎

- ・耐震性が高く、災害時に明確な指示、連絡等が可能な庁舎
- ・広いロビーを備え災害時に住民を一時的に避難させる機能を持った庁舎
- ・緊急事態に即座に対応できるようヘリポートが確保できる庁舎

以上

035 ■ 30代 男性 (長崎市)

県庁新庁舎建設予定地の長崎駅前交通要所として、県外からお見えになった観光客の方々がまず目にする建物となると思います。そこで、

- 「観光都市長崎」が一目で分かるような外観を持たせる。
(宮崎県庁が「宮崎観光のランドマーク」であるように。)
- 観光客の方が、観光地情報、飲食店情報、お土産情報など(長崎に到着してまず手に入れてもらう情報として、長崎県が今いちおしする観光情報)が簡単に手に入れられる施設を備える。(ガイドブックには載っていない、長崎県庁職員の方々のおすすめスポットなどがあるとさらに興味を持っていただけたらと思います。)
- 既存のイベント(ランタンフェスティバルなど)の開催時期に合わせた飾りつけやライトアップなどをこれまでも県庁舎で実施しておられますので、新庁舎ではさらに踏み込んで、「県庁新庁舎でしか見られない何か」があると各イベントにおいて県庁新庁舎が新観光スポットとなると思います。
- みなとまつりなど湾岸で花火が打ち上げられるイベントの時には最上階などを観覧用として開放いただけたらと思います。
- その他、観光とは全く関係ありませんが、長崎市立図書館・長崎県立図書館とタイアップしていただいて、貸し出し図書24時間返却ボックス(窓口)を併設いただければ、通勤などでJRを利用されている方の利便性が高まると思います。

以上です、乱文ご容赦下さい。

036 ■ 30代 女性 (雲仙市)

新庁舎そのものに関しては、防災面を考慮したものになればと思う。県民が憩える場があれば、より利用しやすくなるのでは。また、現庁舎にある備品等はなるべく今後も使用する方向でお願いしたい。使えるものは破損するまで使うべきであり、自身の家の

引っ越しと同様、そのまま持って行ってもらいたい。まちがっても、県知事用応接関係備品は全て買い換える…などならないようにしてほしい。買い換えと同時に、県民の反感をかうことになる。備品等に関しても、基本構想段階で継続活用を必ずいれてほしい。廃棄するにしても、そのリサイクルに費用額が多くかからない方法を選定してほしい。広々とした豪華な施設は望んでいない。施設は質素でいい。ただ、展望台を設置するなど、収益をあげる場を隅々に配慮していただきたいと思う。

利用する立場として庁舎そのもの以外のことで希望することは、なによりも周辺交通状況の利便性をあげることにある。現在でも、長崎駅周辺は渋滞の宝庫であり、今のままでは「県庁へ行くには、あの渋滞の中に入らなければならないから億劫。」となる。

島原半島は長崎県営バス撤退などがあり、公的機関ではなく自家用車で県庁へいくことが強いられている地域もある。(バスが通っているところまで自家用車でいっても、その周辺には駐車場はなく、結果的に長崎市まで自家用車でいくことになる。)

県庁の駐車場整備は大前提であり、現庁舎程度の駐車場では、県庁への足はますます遠ざかり、振興局機能のアップを望む声が大きくなってしまう。

県庁利用者を増加させ、県庁の維持管理費のための収益であげる方法などを考慮した基本構想を望む。(県庁へたくさん人が来る環境づくりが、県庁にかかる県民負担を少しでも減らす方法ではないか。新庁舎は建設だけが目的ではなく、建設後、いかに利活用ができるか、いかにその維持財源をみつめておくことができるかが、県民の理解を得る方法ではないかと思う。利用しにくい県庁に金だけとられる…では、誰も理解はさせない。)

庁舎の内部的な問題よりも、新庁舎へいかに県民が行きやすい環境をつくるかが鍵となってくると思う。五島と同じよう、県庁と市役所が同じ庁舎にも入っているのでは。業務連携ができることは五島でもできているのだから、本庁でも可能ではないか。

諏訪神社から長崎市役所を経て長崎駅に向かうルートも交通環境は悪く、長崎市と連携をしているなら、長崎市役所＝新庁舎間の交通環境の改善もお願いしたい。

037 ■ 50代 男性 (長崎市)

新庁舎は、地球環境問題が大きな課題になっている昨今を踏まえ、太陽光発電や省エネタイプの照明器具の採用、屋上緑化、電化厨房の採用など徹底的に環境を意識した庁舎にしてはどうかと思います。

038 ■ 50代 男性 (長崎市)

新庁舎予定地(旧魚市場跡地)の地盤のレベルは、基本的に低すぎる。長崎湾の大潮時の海面の高さは旭大橋周辺では何十センチもないように感じている。大潮時は淵神社周辺に海水があふれるころを考えると、今のレベルの高さには大いに疑問を感じている。

この為、地球温暖化による海面レベルが上昇することを考慮すると、今のレベルは百年の体系にたって、県庁舎を建てる場所ではないような気がする。

地球温暖化により海面レベルが有る程度上昇して問題ないように、満潮時の潮位を測定し、海面レベル上昇を考慮した地盤レベルとなるように、高くしておくことを推奨する。以上

039 ■ 50代 男性 (長崎市)

新庁舎をシンボルとする意見がある。わが県都には、海・港部のメルク・マールとしてサンフランシスコの金門橋を念頭に置いた旭大橋があり、同じ米国でいうならば、海・港部のニューヨークの自由の女神像と陸部の摩天楼を目指すということであろうが、新庁舎を陸部のシンボルとすることか。

それはそれでよいのだが、欧州ではシンボルは、市庁舎、教会、国の施設が多いようだ。陸部のシンボルはほかに譲ってもよいのでは。どうも、蓋然性を感じない。

新庁舎を県都陸部のシンボルとするとなれば、ある程度贅を凝らさなければならないことになり、そうすると経費がかかることになる。

新庁舎建設においては、少なくとも10~20年先を見据える必要があるだろう。そこには、人口減少、地方分権改革推進⇔道州制という課題が控えている。今も財源不足という難問を抱えている。

こういう状況の中で、真っ先に考えられるのは、経費節減、有効利用であろう。とすれば、新庁舎は、無駄をすべてそぎ落とし、機能的かつ効率的そしてシンプルでフレキシブルな建物とするほかはない。

先の課題等とあわせ考えたとき、広域的な拠点としての役割を果たすうえでの防災、許認可、警察等の事務は残さざるをえず、議会は残る可能性が少ないと考えた方がよいと思われるので、それがなくなったときのことも考えて、(議会棟・スペースの)有効な活用ができるようにしておくのがよいではなからうか。

040 ■ 40代 女性 (長崎市)

以前、県庁でアルバイトとして仕事をしたことがあります。現在の県庁舎は暗く、狭く、古く、まるでお化け屋敷のようだと感じました。

新しい県庁舎は明るい、広い、きれい、お洒落をテーマにしてほしいと思います。明るく広く、きれいな空間の心地よさ。そこにいて気持ちよいつ感じられる空間は、働いている人の気持ちに余裕が生まれ、訪れる人も楽しくなります。以下が細かいアイデアです。

【木の廊下】

現県庁には木の廊下があり、古いですがとても感じが良いと思うので、新しい庁舎でも木の廊下は採用しても良いと思います。現在の木の廊下は老朽化して古くさいイメージですが、木の廊下自体は逆に現代的ですてきなイメージになるのではないかと思います。

【身体にやさしい空調】

デシカント空調や放射冷暖房システムなどもいいと思います。放射冷暖房システムは見た目もおしゃれですし、人に優しい空調なので、話題になると思います。

【ミーティングコーナー】

現庁舎には訪れた人と打ち合わせをする場所がありません。

執務室への出入りはいろいろと問題が起こることもあるので、お洒落なテーブルと椅子を並べた共用のミーティングコーナーを何か所かに設けたらいいと思いました。

【建物】

建物のつくりは、JR京都駅ビルみたいな雰囲気もおもしろいかなと思います。駅ビル内のデパートが階ごとに階段状になっていて、階段で屋上まで上れます。屋上近くにはレストランなどがあり、階段広場ではコンサートなどさまざまなイベントが行われています。屋上は芝生がある展望広場になっていて、観光客やデパートのお客がくつろいでいました。そんなふうにもみんなが集まってくる広場があるのはいいなと思います。建物をゾーンで分けるのも訪れた人にはわかりやすいと思います。

(西ゾーン、中央ゾーン、東ゾーンなど)

【まとめ】

いろんなことにこだわると、たくさんお金がかかると思います。そのことについて必ず批判はあると思いますが、それを恐れていては、出来上がってから、評価されるものにはならないと思います。徹底的にこだわったほうが、「やっぱりいいね」と県民も喜んでくれるものができると思います。ちなみに建築家などは、長崎出身で全国的に活躍されている方などがいいかと思っています。長与町高田郷にあるチョープロ本社を設計した増田浩隆氏は長崎出身の方です。

041 ■ 30代 女性 (長崎市)

- ・長崎の観光の窓口として、観光ツアーやホテル、離島へのフェリー・ジェットチケットを申し込める窓口が欲しいです。
- ・最上階に夜遅くまで開いている長崎市市内を見渡せる展望レストランが欲しです。

042 ■ 60代 女性 (長崎市)

<行政と観光長崎の拠点に・・・>

私が想像しますに、新庁舎からの眺望は非常に素晴らしいものだと思います。それを限定された人のみが味わう・・・としたら大いにモッタイナイと思います。

遠くに女神大橋を見ながら鶴の港(?)が大海へと広がっていく、そして世界へと・・・

人間そのような風景を目にした時の思いは必ずといってよいほど前向きで希望すら感じるほど力強いものだと思います。

そこで私からの提案です。

新庁舎の一階全フロアを市県民に開放して下さい。そして行政は二階からです。そこには市県民、内外からの観光客が思い思いに素晴らしい景色を眺めたり、談笑したり又はカタコトの会訪がはずんだり、盲導犬がいたり、車椅子があったり・・・想像するだけでワクワクしてきます。

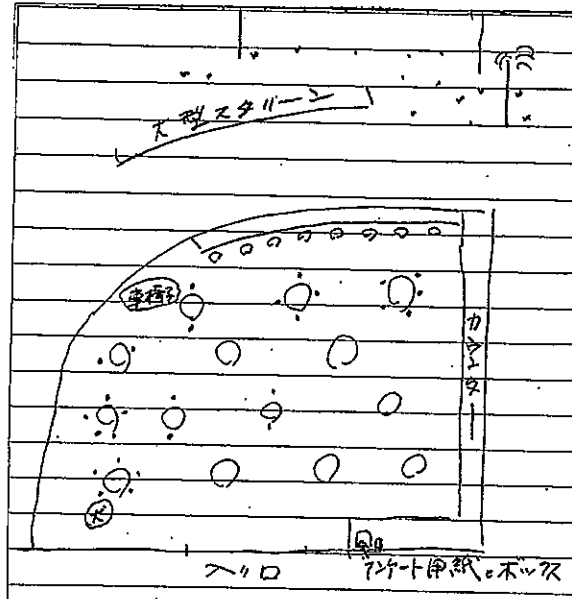
肝心なのは店内には大型スクリーンが設置され、常時県内のどこかで開催されている行事、行ってみたいくなるような景勝地(離島とか・・・)が写し出されている・・・結果的には、長崎再発見とゆうことになり、その良さは口こみで県の内外、そして海外までもアピールすることになると思います。

昔から長崎人の人情深さと旅人への心遣い特に女性たちの人気が大なるを見聞する時大勢が集う場所が今の長崎には見当たらず大いに残念です。

県知事の人気で人を集める県庁舎もありますが、庁舎そのものが人を集める・・・そんな県民に広く開かれた気配のある県庁であって欲しいです。

こらからの行政は、良いところ取りの上から目線ではなく、同等目線が必須だと思います。

そこで私が強く提唱したいオープンカフェのスタッフはすべて県庁マンです。そこで民間以上のアイデアと接客術で今、停滞気味の長崎を盛り上げて頂きたいと強く思います。又、展望エレベーターが設置され変わりゆく風景と活気に満ちた市街が展望できれば嬉しく思います。



043 ■ 40代 男性 (南島原市)

県庁を訪問させていただいて、気づいたことをいくつか投稿させていただきます。

- ・ 駐車場が狭く、大型バス等では利用しにくい。
- ・ 環境面、コスト面を配慮してのことだろうが、照明が暗い。
- ・ 初めて訪れた場合、どこに行ったらいいのか、案内が不明瞭である。

044 ■ 40代 男性 (長崎市)

地域経済に対する影響や社会的価値の高い場所であり、経済活動や景観の保護(維持)責任がある土地である。

建設費、維持費削減のため、建築物の一部を民間施工借上げや企業への賃借を検討
 将来の転用、売却を考慮し、周辺と一体化した設計・交通・路面電車の引き込み、長崎
 駅からの直通路

- 店舗 アプローチ部分、庁舎内への民間参入
- 宿泊 ホテル(庁舎内)
- 住宅 民間借上げ公舎

文化的活動（くんち、精霊流し等）に対し寛大な県民である
閉庁時でも、庁舎の一部、周辺を県民の憩いの場として開放
店舗、公園(緑地)、駐車場等
来客目当ての、露店、パフォーマー(大道芸人)の利便を図る
許可制(東京都、福岡市等)も検討

災害時の活動拠点となる

空、海からのアプローチ

ヘリポート、栈橋の設置

鉄道、幹線道路からのアプローチ

駅及び複数の道路から直接アプローチが可能

対策本部、救急活動、物資保管、搬送スペースの確保

通常は倉庫、駐車場、緑地等

045 ■ 40代 女性 (島原市)

社会科見学で児童と共に行きましたが、トイレが狭くとても入りにくかったので車いすでも楽に入れる様にして欲しいです。

また、社会科見学で遠方から来庁すると車酔い等があります。そのような児童が、手を洗ったり少し休める場所があるととても助かります。

046 ■ 40代 男性 (長崎市)

●ワンストップ化の推進(可能な分野)

待ち時間の短縮や快適性の確保。提出後は、受取りは別場所や希望時間、郵送等でも可能に。

●職員の健康管理

今後の高齢化社会では医療費の増大が問題になる。在職中の健康管理だけでなく、退職後の健康維持まで考慮した体制、施設が望まれる。

●診療施設の拡充

医科、健康相談に加え、歯科も加える

●健康維持施設(他用途との兼用)

体育館、トレーニングルーム、ジョギングコースの設置

●公舎、宿舎、託児所の設置(民間施設の活用)

通勤、災害時、繁忙時の負担減

●景観への配慮

・海からのイメージ(女神大橋～フェリーターミナル～県庁)

横浜みたいな統一的なランドスケープの確保

海から訪れたいくなるような景観

駅からのイメージ(長崎駅～県庁～フェリーターミナル)

ミラノ、パリ等の終着駅、観光客の期待感が持続できる様、建物だけでなく、色彩、看板、ストリートファニチャーにも言及、大道芸人も可

・山(山頂)からのイメージ

鶴の港、バタフライを彷彿させるデザインの採用、夜景への貢献、ライトアップ

047 ■ 40代 女性 (諫早市)

- ・現庁舎は、廊下が迷路のようでわかりにくく、狭かったので、分かりやすく広めにしていただきたい。
- ・車いす用に対し、バリアフリー化をしていますが、坂が急だったりして、登りにくそうに感じた。よって、勾配を緩やかにしていただきたい。
- ・駐車場が非常に狭かったので、敷地面積にもよりますが、広くしてもらいたい。狭い場合は、是非地下駐車場を造っていただきたい。

048 ■ 20代 女性 (五島市)

(1) 庁舎を訪問した時の印象

6月に授業の一環として生徒と県庁を訪問し、見学をさせていただきました。初めての訪問でしたが、いくつか改善したほうが良いのではと思う点がありました。それは以下の点です。

《1》薄暗い・閉鎖的

《2》どこに何があるのかが分かりづらい

《3》通路が狭く、利用しにくい部分がある

《1》についてですが、省エネを心がけているためか何となく薄暗く、閉鎖的な感じがしました。構造上、光を取り入れづらくなっているのかもしれませんが。

《2》についてです。見学した際は係の方が大変ご親切に案内してくださり、迷わずに見て回ることが出来ましたが、おそらく案内がなければ迷ってしまうでしょう。原因としては、庁舎内は改装を何度か行われており統一感がない。また、庁舎が分散している、案内表示が分かり易くない、などがあげられると思います。

《3》については、書いてある通りです。さまざまなところに障害を感じました。

(2) 新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等の提案

全体的に構造が古いように感じましたので、(1)のような点を踏まえ、さらに良い庁舎となるよう、以下を提案したいと考えます。

《1》開放的なイメージを作るため、開口部を工夫する

《2》庁舎を一つにまとめ、統一感を持たせる

案内を工夫し、はじめてきた人にも利用しやすくする

《3》ユニバーサルデザインを取り入れる

《1》についてです。明るくするために電気をこまめにつけては省エネにはなりませんので、開口部を多く作ったり、場所を工夫するなどして、自然の光を取り入れるとよいと思います。また、建物全体に明度の高い色を取り入れるとよいのではないのでしょうか。

《2》についてですが、全体で統一させてもよいし、各課ごとに分けてもよいと思います。そして利用者が利用しやすいように、例えば病院によくある床に案内の矢印線をつけたり、細かく案内板をつけたりするとよいと思います。

《3》についてですが、今や新しい建物はほとんど、ユニバーサルデザインを取り入れています。新庁舎でも、さまざまなところに取り入れていただきたいと思います。

(3) 終わりに

学校はもちろん、県庁も開かれた県庁が求められていると思います。開放的で清潔なイメージをだし、もっと県庁が身近に感じられるようになると良いと思います。また、今「エコ」という言葉も大切なキーワードになっています。県下の見本となるような、環境も人にも優しい環境共生型の庁舎にしてほしいと思います。

049 ■ 40代 男性 (松浦市)

◎道州制関連

- ・地方分権（道州制）を見据えて最小限の規模とする。
- ・現在の県庁舎（利用できる部分）に長崎振興局を当面移転
- ・県庁跡地活用は道州制を見据えつつ検討を継続
- ・道州制が実現すれば新県庁舎に長崎振興局の機能を移転

◎その他

- ・庁舎内に観光案内所と物産館を設置
- ・ロビーにて観光物産情報の常時上映

050 ■ 30代 男性 (長崎市)

現庁舎においては本庁舎が手狭なうえ庁舎が幾つもあり、部署によっては水辺の森公園近くや長崎駅周辺など広域に分散されています。これに警察本部なども含めると相当数となり複数の部署を利用する利用者にとっては大変不便な状況です。

新庁舎においては県庁、警察本部が集約されると聞いております。せっかく長崎の一等地に建設するのですからこの好立地を最大限に活かすよう県営バス（含む観光シャトルバス）、離島航路の発着点、観光案内所（外国人向け含む）などを併設したらどうでしょうか。観光客をはじめ県民にとってはJR長崎駅との接続により利便性が飛躍的に向上するものと思われま。

長崎は観光立県であり観光業は他の業種に比べ経済効果も非常に高いと聞いております。是非県民や観光客の利便性が向上するようなシンボルタワーの建設に取り組んでいただきたいと思ひます。

また、建設及び整備については数百億の投資となります。公共工事が減少している本県ではこの投資は長崎県内企業にとって景気回復への大きなチャンスであり期待も大きいと思ひます。

県内企業優先発注するなど県内の景気回復策にも貢献していただきたいと考えています。

051 ■ 30代 女性 (佐世保市)

機能の一つとして、長崎県内の物産を販売できる場所を常設するというのはどうでしょうか。月替わりで県内各市の物産展を開き、観光客はもちろん、県民が気軽に立ち寄れる場所とするとか。

宮崎県庁が観光コースの一つとして活用されているように、堅苦しい県庁のイメージから、県民・観光客に開かれた明るい県庁というイメージを作ることができると思います。

052 ■ 60代 男性 (波佐見町)

県の地形をどこかにディスプレイされる場合、形をはっきりとつかめる方が印象深くアピールします。テレビ天気予報などに見る地形はカット編集されているため全体の形、東西南北を正確に掴めません。

九州一体では長崎県がないとさびしい感じはありますが他の県とおなじレベルであまり目立ちません。

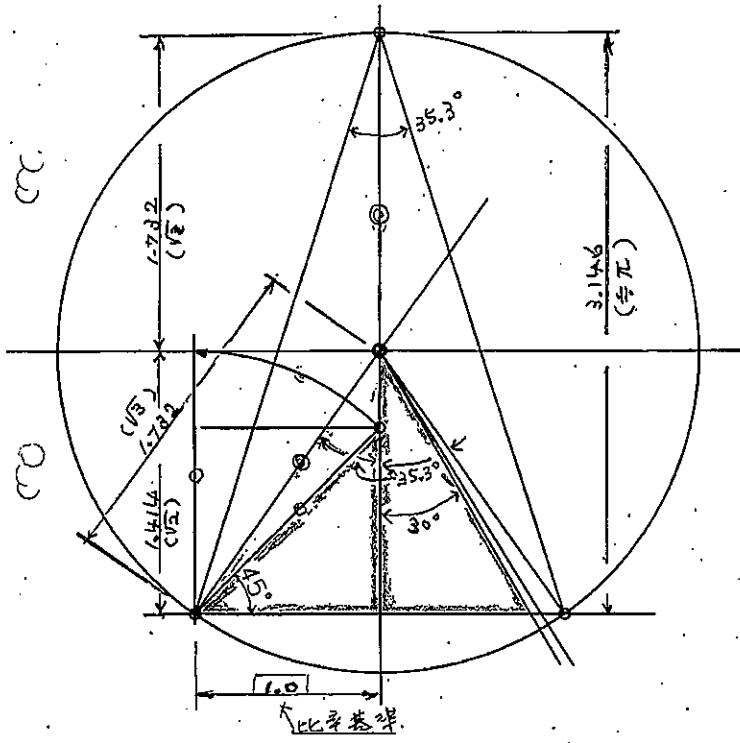
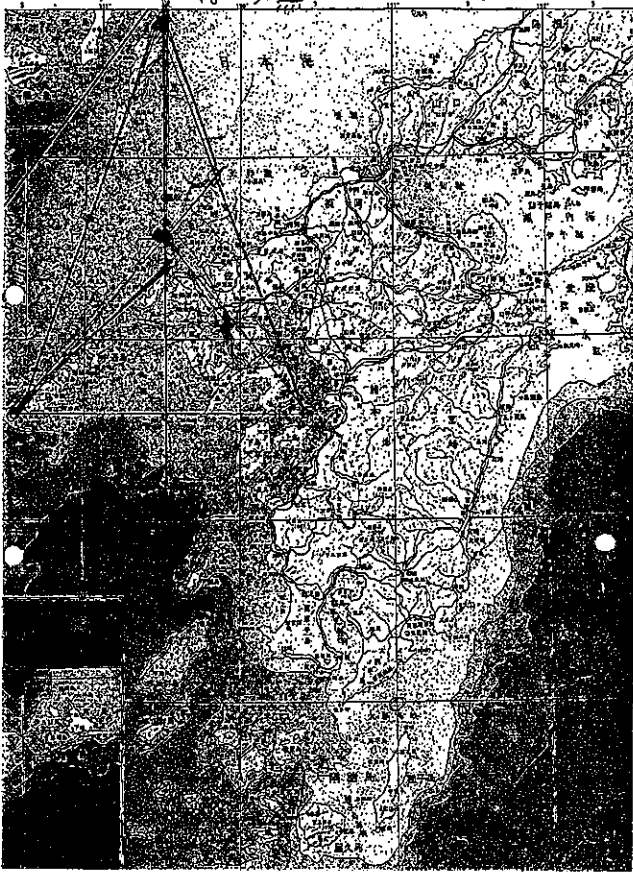
しかし、佐賀県との県境を切り取り長崎県のみを眺めると'オヤッ'と思う形の美しさ、バランスを感じます。日本列島同様に他県にない繊細な美しさがあります。

五島列島は斜め45°に連なっているあたりから、ここに45/30°二つの三角定規があると見立てられます。添付図*)はこれらの発想から図形を引いたものです。

平戸島の北、大島北辺りに中心をおく大きな円の中に県全体が入ります。対馬列島の傾き方向、壱岐島の位置が正確に把握できます。

この図では、寸法比が $\sqrt{2}$ や $\sqrt{3}$ 、あるいは両者の和 π (3.14)の近似値などで成り立っています。ここにはA版、B版用紙の寸法比関係、角度が入っています。

円の中心は北緯33°33'辺りですが、同緯度東方には'龍馬'の生地、土佐・高知があります。高知市では、自らの地を特徴地点ととらえ町興しにまで活用されています。



053 ■ 70代 男性 (長崎市)

1. 基本理念

旧繁華街が繁栄すると言う理念をもってこれに当る地域格差の出ない共存共栄の思想をもってこれに当る。

2. 具体的な跡地の活用策

浜の町等駐車場の不足をカバーして経済発展の促進をはかる。

3. 県警察本部跡地は低廉なる宿泊施設をつくり、観光客を誘致し観光の発展を盛んにする。

054 ■ 60代 男性 (兵庫県)

私は今年の3月31日芦屋市役所を定年退職しました。この間平成12年度に第3次総合計画を初めて市民参画で策定し、平成16年に初代の市民参画課長として市民が市政に参画するシステムをつくりました。

遠く、神戸在住の長崎県民出身(佐世保市)に意見をお求めいただき嬉しく思います。

応募内容については勉強不足ですので意見を述べることはできませんが、「どうぞ県庁舎の周辺は緑多く余裕のあるアンダーグラウンドの余地をめぐらせて下さい。」これだけは言えます。

055 ■ 70代 男性 (壱岐市)

① 新庁舎に求めるもの

本庁舎・議会棟・警察本部庁舎の三棟を基本とする。

② 新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等

ア、県民が利用できる待合室等の面積を現庁舎より広く設けること。

イ、議会棟は傍聴等に気軽に立ち寄りやすい建物に

ウ、警察本部庁舎の屋上にヘリポートを設け、防災・防犯の警備活動、救難活動等に利用できるものとする。

③ その他

長崎港の玄関にあたる建設場所であるので、もし出来ることなら、建物群をまとめて帆船のイメージに見えるような設計ができないかと思う。

056 ■ 40代 男性 (長崎市)

● 県民にとって開放された県庁舎であること。

県民が訪れ、以下のようなことが気兼ねなく、容易に知ることができる、或いは、感じられるような県庁舎であって欲しい。

- ・ 県内のいろいろな動きを見る／聞く／調べることができる。
- ・ 県内の課題、課題に対してどのような方向で取り組んでいるのかを知ることができる。
- ・ 県議会の模様や議論された内容、或いは、決定事項を知ることができる。
- ・ 長崎県の地域性、特徴、県民が大切にしているものなどがわかる。
- ・ 今現在の県内が見渡せる等々。

057 ■ 50代 男性 (長崎市)

☆ 一県民としての思い

○ 新庁舎は、市街地再開発の中心に位置するHUB機能の一つを担うと考える。

○ そのHUBは三つの機能を有し、かつ一体化した空間。

1. 観光のHUB機能 (遠来のお客様の交通アクセスの終点)

2. 商業のHUB機能

(遠来のお客様、県民が回遊できる巨大なモール)

3. 行政機能のHUB (新庁舎)

- ・ 上記観光HUBと商業HUBを考慮すると、新庁舎は長崎の歴史と文化 (和華蘭文化) の香りがするハードとソフトの整備が望まれる。
- ・ 自治体版ライブオフィスの長崎モデルを目指して構築し、来庁者と職員双方に喜ばれるものとする。
- ・ 特に来庁者へは、アメニティとコンシェルジェを感じるような仕掛けが必要

★情報通信事業に従事する者から見たITの役割

- 防災拠点としての機能強化
- セキュリティ対策の強化
- IT・BCPの取り組み

日常業務はその多くをITに頼っている現実があるため、災害時でも業務継続のため、ITを停止させない、停止しても早期に復旧する取り組み

- 職員の業務の効率化、生産性アップに貢献する取り組み

058 ■ 30代 男性 (福岡県)

新庁舎建設予定地は長崎新駅に隣接する拠点となる立地のため、行政機能と併せて、市民や観光客が集うことのできる集客機能が求められると考えます。具体的には庁舎前広場や屋上(緑化して)を一般市民に開放し、憩いの空間やイベント等で利用できるようにすることが考えられます。建物についてはウォーターフロントの周辺景観と調和したものが望ましく、低層階や海側のテラスなどは民間等への貸し出しにより、簡易な物品販売やオープンカフェなどで利用できるような柔軟な対応ができないかと思えます。

次に設備面ですが、県の公共施設の中心となる県庁舎ですので、環境面での配慮が必須となると考えます。そこで、太陽光発電や壁面緑化、屋上緑化などにより地球温暖化対策に貢献するとともに、その効果を計測(発電量、削減CO2量、温度低下)し、利用者の皆さんが一目でみることができる仕組みを構築することで、県民の皆さんの環境保全への意識を高めることも必要であると考えます。

059 ■ 20代 女性 (佐世保市)

① 新庁舎に求めるもの

まず、県庁舎にどれだけの県民が訪れているのだろうか。

多額の税金を使って本当に立派な庁舎が必要なのだろうか。

誰のために県庁舎を建てるのだろうか。

このような基本的な疑問に答えていかないと基本構想は出来ないのではないかと思います。

県民が県庁に来るといったら、一般的にはパスポート申請、情報公開請求、県政相談ぐらいではないかと思います。統計をとられたらいいと思いますが、1日平均何人

の県民が訪れているのでしょうか。施設整備にあたっては、県民の利用頻度の高い部署と低い部署を区分けして、配置階数や（部署の）床面積などに配慮が必要だと思います。

施設の面積は単純に、今が手狭だからといった理由で延べ床面積を増やすようなことは避けてほしいです。県民が直接的に利用しない部署については、今の延べ床面積自体の見直しも必要かと考えます。県庁舎は、大部分が県職員の執務室に過ぎないので、その部分はぎりぎりまで検討すべきだと思います。そもそも机が置けない、書類保管場所がないなどの理由で延べ床面積を増やす前に、今の人員配置、県庁には正規職員以外に多数の臨時職員（アルバイト）がいると聞いていますがその方々が本当に必要なのか。また、書類についても電子決裁によりペーパーレスをどの程度進めているのかなど、現状についての検証が不可欠だと考えます。

鹿児島県庁や群馬県庁のように立派に建設して、最上階に展望室や喫茶室作ることで、県民の方に広く利用出来る施設になりましたという体裁だけを整えることだけはやめていただきたい。税金で作るのだから本当に必要なものを作ってください。

最後に誰のために建てるのかということですが、県民のためではないでしょうか。統計を取らないと具体的な数値は分かりませんが、県民が直接足を運ぶことが少ない施設でかつ、今後道州制という方向で県自体の存在、権限、職員も縮小していく可能性がある点を踏まえて、施設の規模については、必要最小限度とすべきであると思います。ただ、議会棟の傍聴席については、今の席数では、県民の知る機会の提供としては不十分なので、ここは是非傍聴席の数は増やしていただきたい

060 ■ 30代 女性 （佐世保市）

庁舎建設予定地が魚市跡地とお伺いしております。

駅周辺の開発も行うようですが、長崎県外から来られる場合の玄関口といえば、長崎駅。そこから、長崎の特徴である「坂（斜面に家が立ち並ぶ風景）」そして、「海」というものが、駅から一望できるような形で庁舎建設は実施してほしいと思います。

例えば、何十階というような庁舎を建設するのではなく、周りの山、海の自然にマッチしたクリアな庁舎建設を望みます。

061 ■ 30代 男性 (南島原市)

合同庁舎が望ましいと考えます。

道州制も視野に入れ、環境の変化に柔軟に対応できる(庁舎の大規模改修などが不用)ような建物にするのが理想だと思います。

個人的に鐘を新庁舎にも引き継いでいただきたいと思います。

062 ■ 30代 男性 (南島原市)

展望台の設置(カフェテラスなど長崎の夜景が見れ、食事もできるような場所を設置してもらいたい。)

県民が気軽に立ち寄れ、県外の観光客のための観光スポットになるようにしてもらいたい。

063 ■ 40代 男性 (長崎市)

前々から思っていることなのですが、本県産業の大きな柱として観光があります。

それなのに、長崎駅に降りたってみると他の県庁所在地や中核都市の風景と何ら変わりがありません。

これでは観光で楽しみに長崎を訪れた方々は失望されてしまうのではないのでしょうか?異国情緒あふれる長崎??どこが??といった感じにしか見えません。

本来なら、旧市街地だけでも新しい建物には外観規制をかけて長崎の洋館群と意匠上同じような街並みを形成するのが最も良いと思いますが、急にできる事ではありません。

せめて、公共の建築物だけでもそのようにならないでしょうか?県美術館や博物館などでできてしまったものは仕方ありませんが、当時は大変がっかりしてしまいました。

ですから、今度の県庁舎は是非赤レンガと和瓦を基調にした飽きの来ない、誰もが美しいと思えるクラシックデザインでお願いしたいと切に願っております。本県観光の羅針盤として、長崎の建物はこうあるべきという一つの模範となるような建物を期待しております。

県民がみな誇りを持って愛せるような建物になれば、周囲にも少しづつ街並みが形成され、今経営で苦しんでいるハウステンボスとの整合性もとれて、長崎県観光の一つの象徴になれるのでは?と夢は膨らみます。以上、乱文にて失礼いたしました。

064 ■ 30代 女性 (佐世保市)

現庁舎は、本庁舎、別館1、2、3と分かれていること等から、来庁者にとっては特にわかりづらく、職員にとっても効率的ではない。

また、各課の執務空間が非常に狭いにもかかわらず、資料がたくさんあることから、資料が座席の周りを取り囲んでいるような状況になってしまっている。来庁者にも圧迫感のようなものを与えてしまっているのではないだろうか。中で執務にあたる職員にとっても快適な執務空間とはなっていない。

したがって、新庁舎は、来庁者、職員ともにわかりやすいレイアウトにしていきたい。また、資料を効率的に保管できる空間、システムをつくることによって、さらに利用しやすい県庁になればいいと思います。

065 ■ 50代 女性 (長崎市)

●新庁舎に求めるもの

長崎駅は終着駅。その「終着駅を抜けるとそこは県庁だった」では、あまりにさびしいので、やはり、「女神大橋も見える長崎港だった」にして欲しいと思います。ですから、建物建設においては、視線の確保を条件にしてほしいと思います。

●新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等

長崎駅の新駅舎(高架)の建設に合わせ、県庁を歩行者デッキで結び一体的な活用を図る計画と思われますが、南口の確保や旭大橋の低床化とともに、建設予定地南東端と元船町側を結ぶ歩行者専用のブリッジを確保し港の周遊性を高めて欲しいと思います。

●その他(景観への配慮)

長崎港は、水辺の森公園の整備により劇的に美しいまちなみ景観に生まれ変わりました。同様に県庁予定地の周囲も高木による並木を設けることにより、港全体をグリーンベルト化して欲しいと思います。

066 ■ 40代 男性 (南島原市)

① 新庁舎にもとめるもの

現在の県の債務を考えれば質素儉約をおもんずべきと考えます。

機能性を考えてシンプルにしてください。

② 新庁舎がそなえるべき機能としての施設や設備等

防犯上大変難しいとは思いますが、県民の利便性を考え誰でも行きやすいわかりやすい構造にしていきたいです。

067 ■ 30代 男性 (五島市)

●タイトル：続・ながさき「新出嶋」構想

理念：国際交流・物流の中核的施設および司令塔としての県庁舎のありかたを提案する。

目的：有史以来、日本の中で最も世界が近かった地の一つである長崎の本来のポテンシャルを最大限に活用し、再び日本の海の玄関口としてその役割を担う県を目指して欲しい。国際交流基地、九州内外・県内の一次生産品輸出における国内輸送の最大拠点、観光資源の活用推進拠点としてなど、新県庁舎および周辺地区は多角的な整備・活用が望まれる。これが『新出嶋』構想である。

具体的構想：

1. 『新出嶋』構想

出島を模した形状の大型ビルの県庁舎を魚市場跡埋め立て地に建設すること希望する。その地に、県の国際・文化・交通関係部署・一次産業推進部署等（国際交流・観光・商工業・流通・港湾・交通・文化振興や文化保護・地域ブランド力強化や一次産業振興など）を中心にその機能と連携を強化させ新庁舎に移転し、その他に新設される国の観光庁を中心に、国の官公庁および国内外の都道府県・市町村の交流・物流・観光局などの事務所、国際旅客ターミナル、税関施設、ながさきブランドを中心にすえた国内外の免税特産品市場、国際交流センター、国内外の国際文化・観光展示施設、外国公館等を新庁舎とその周囲に誘致し、多目的活用していくことが望まれる。この構想は、県庁舎を中心とした用途に応じた関係諸機関の速やかな連携のためへの布石であり、道州制を見越した長崎の地位確保には有効な施策である。

2. 『新出嶋』を日本一海外が近い地に（長崎国際港と長崎新幹線との直結）国際航路と国内主要交通である長崎新幹線が直結する地として、新県庁舎とその周囲をその役割にあてて欲しい。福岡空港と博多駅間のアクセスよりも

長崎国際港と長崎新幹線駅のアクセス時間を短くする。病院建設が予定されていた長崎貨物駅跡を、国際旅客ターミナル、税関施設、ながさきブランドを中心にすえた国内外の免税特産品市場、国際交流センター、県議会堂と併せた国際会議場、国内外の国際文化・観光展示施設、外国公館等を隣接する県庁舎と有機的に配置し連携を深める。このことが、長崎のグローバル化する観光による交流人口の増大、道州制における地位の確保、物流拠点としての意義を高めることにつながる。

3. 『新出嶋』の周囲を長崎国際港と長崎新幹線ターミナルの一体化による低炭素交通網を用いた物流の九州最大拠点に。長崎県は、国内で最も海外に近い地の一つであることはいうまでもありません。二酸化炭素排出量の少なく、エネルギー効率がよい、船舶と鉄道を用いて短距離を結ぶ物資輸送は、環境問題や資源枯渇に対応する重要な手段です。高速鉄道で長崎に集積された、ながさきブランドを中心とした九州各地のブランド品を国内外の大型輸送船、香港やオーストラリアで用いられているソーラーエンジンの船舶を用い海外へ送り出して欲しい。一次生産品を中心としたながさきの離島ブランドを国内大都市へ昼行に限らず夜行の長崎新幹線を活用して送り出して欲しい。

068 ■ 60代 男性 (大村市)

行政は地域の住民の為の業務を行っており、施設は親しみやすい施設であることが基本だと思う。それとともにアクセスが容易な事が必要である。むしろアクセスが良くなければその施設は存在意義がない。したがって、県庁舎もそうあるべきである。かつ、現在の諸企画において環境負荷を少なくする事も必須である。施設そのものもちろんであるが、ここで申し上げるアクセスにおいてもそうすべきである。したがって、例示にある駐車場の整備もある程度は必要かも知れないが、基本的にはすべての来訪者に公共交通機関を利用するよう要請するくらいあって良いと考える。環境負荷の見積もりはそこまで計算するべきである。新幹線は環境負荷が小さいとPRされているが、何と比較しているのか？今より環境負荷が減少するのであればそのとおりだろうが、話が反れたが、県庁へのアクセスには、バスと路面電車両方の利用が容易であるようにして欲しい。

「県庁前」という停留所があるべきで、それは文字通りであるべきだ。駅周辺の再開発計画では、路面電車の線路が広場の方へ引き込まれているようだが、更に延長し、アミューの裏側か、駅のホームの下を通る。

069 ■ 40代 女性 (佐世保市)

案1. ワンフロアーを長崎県内の「知の拠点」とする。

- 県内大学、県内企業のサテライトキャンパスとして県内学生の教育、社会人の再教育をする。
- 県内大学、県内企業共同の研究施設を建設し、産学官連携の拠点、知の拠点、情報の拠点とする。
- 自治体職員、企業従業員の教育施設とする。
- 県内市町村とTV会議システムで結び、各市町村から利用可能にする。

案2. 屋上は緑化する。

070 ■ 40代 男性 (長崎市)

● 道州制への移行を前提とした設計

- ・ 議場は廃止後も有効活用できるように多目的な設計とする
→ 町村合併後の役場の議場のありようをみてそう思う
- ・ 庁舎も規模縮小となったときに、県民が有効活用できるような設計が良い
- ・ バリアフリーとエコロジーで全国NO1の評価を受けるような庁舎を目指す
→ 全国にアピールするようなコンセプトが欲しい
- ・ 県の収支改善への取り組みにより、職員数は減少に向かっているが、地方分権の推進とともに業務量の拡大が予測されるため、職員の業務生産性向上と執務環境の向上は必須である
- ・ 新庁舎への移転を機に、街づくりの主体となる職員の方々の意識変革にも期待する
→ 過去の前例にとらわれず、新しい仕事のやり方を検討し、改善を継続して行うことで、業務生産性の向上を図ることも必要だと思う 以上

071 ■ 20代 女性 (長崎市)

- ・ (上空から見ると県章になるような) 県章をモチーフにした庁舎 (丸みを帯びたビルで2棟に分ける: 1棟は市民窓口、県産品物産館、観光案内所などにする。)

- ・ 県営バスだけでも県庁前までいけるような交通網を確保して欲しい
- ・ 緊急ヘリポートは必須だと思う
- ・ 周囲は県民が集えるような広場を設けてほしい

072 ■ 20代 男性 (諫早市)

①新県庁舎に求めるもの

1. 縦ではなく横のつながりを重視・体現した構成

一般的に言われる「縦割り行政」に対応した施設計画ではなく、「横のつながり」をより活性化できるような施設のあり方を模索していただきたいと考えます。建物の平面・断面計画において、職員の方がスムーズに各課・各部署を横断出来るような計画を求めます。オフィス機能の面でも庁舎全体が一体となれば、活気ある新たな県庁舎のイメージを作り得るのではないかと考えます。また、利用者にとってもその様な施設は使いやすく、気軽に訪れることが出来る親しみやすいものになるのではないかと思います。

2. シティ・センターとしての役割

オフィス機能の充実と並行して、県民、さらには観光客も利用できる、「みんなのための施設」として構想していただければと思います。建物の外観によって象徴性を誇示するのではなく、利用者が日常的に「使う」ことによって心に残る、身近な印象を持った施設となることを願っています。

3. 変化し続ける庁舎

様々な変化に対応できるインフラの整備が求められています。また、機能面での柔軟性だけではなく、「年を重ねる毎に価値が上がる」建物であって欲しいと思います。竣工時が一番綺麗な状態で、使い続けるうちに古びていくような建物ではなく、古く変化していくことは当たり前だと捉え、しっかりとしたメンテナンスを行いながら、その古さが「味」になるような施設を目指していただきたいと思っています。

073 ■ 60代 男性 (長崎市)

●新長崎駅から新県庁舎にダイレクトにアプローチ！

新長崎駅から空中回廊（空中トンネル）もしくはグリーンベルト、動く歩道などで県

庁へ誘導する。

空中回廊が無理ならば、おしゃれな地下街でも良い（最低でも風雨にさらされない環境を）が、これは県庁舎と商店街 をドッキングさせる有効な手段でもある。

●新県庁舎内にビジネス環境を！

新長崎駅にダイレクトにアプローチできる環境を活かし、最新設備を備えた会議室を多数準備し、各種セミナー、ミニイベント、ミーティングなどがそれぞれの用途に応じて開催できる環境を整備する。

●新県庁舎を観光の目玉に！

新県庁内のラウンジ、屋上展望室などを夜間開放することにより現在の稲佐山、風頭、女神大橋と並び夜間観光の名所とする。（駅から近い利点あり）東京都庁、ニューヨークのエンパイアステートビルなどを参考にして下さい。

074 ■ 20代 男性 （長崎市）

●極論を言うと新庁舎にシンボル性、デザイン性は必要がないと考えます。

私が考える新庁舎は県行政の事務の場として最低限の機能そして災害、有事の際の防災・防衛拠点としての、頑強さが重要だと考えています。

昨今の経済危機の現状では華美なデザインの建築は県民にあまりいいイメージを与えないでしょう。長崎港の景観を邪魔しない、むしろ景観に負ける建築デザインであるべきだと思います。

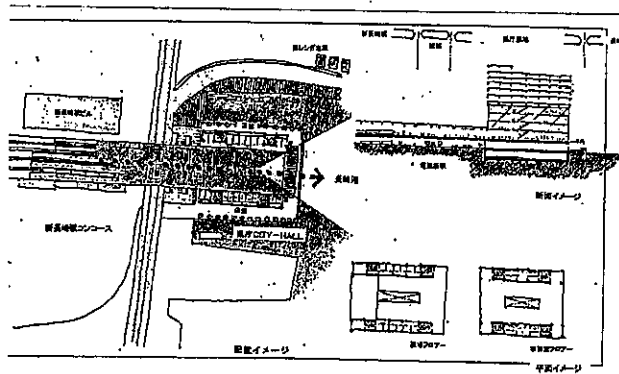
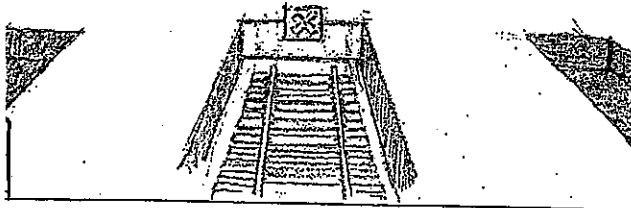
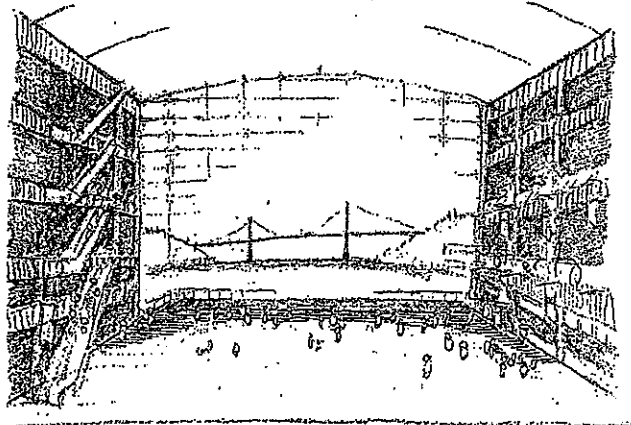
次に台風・地震等が起こったときの十分な耐震性や強度は必要なほうまでもないですが、中国、ロシア、北朝鮮という核保有国に囲まれた日本、特に国境の島である対馬を有する長崎県としては国防の意識を持つべきだと思います。笑い話になるのかもしれませんが少々のミサイルごときではびくともしない地下シェルターがあってもよいと考えています。

シンプルで頑強な庁舎、それが私が考える新庁舎像です。

075 ■ 40代 男性 (諫早市)

① 長崎湾と市民に開かれた県庁舎とする。

募内容 長崎湾と市民に開かれた県庁舎とする。



076 ■ 40代 男性 (大村市)

① 新庁舎が備えるべき機能としての施設

観光都市長崎・・・機能性もさることながらやはり周囲の景観にマッチした建築デザインが必要とされると思う。県庁、役所という直線的でデザインよりも機能性が重視された物が多いと思う。また、デザイン的にも近未来的なシャープな物が増えてきているような気がするが、それぞれの県の風土に合った個性的なデザインもあっていいのではと考

える。既成概念を払拭し思い切ったデザインで県民の注目を集め、広く県民から愛されるようなデザインが必要ではないかと考える。そこで以下のような建築デザインのポイントを考えた。

★ 世界遺産登録を目指す長崎の教会群をイメージしたゴシック建築風のデザイン

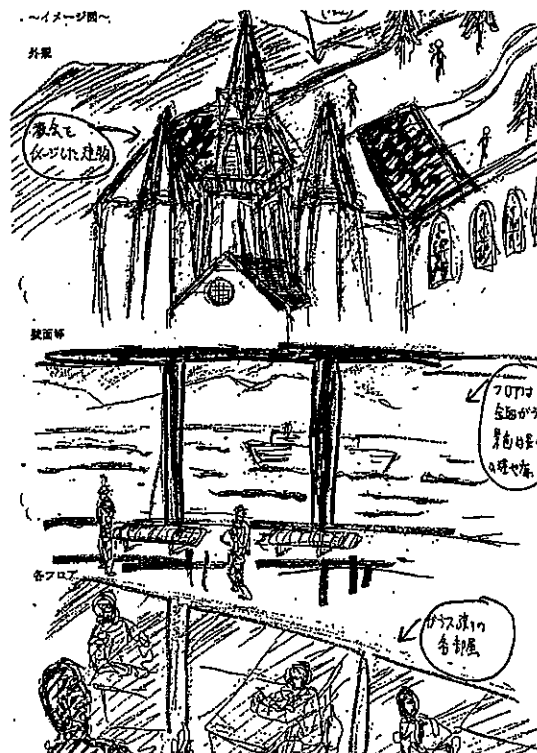
- ・ 室内にステンドグラスの採光窓
- ・ 入口ホールは大きな吹き抜けで開放感を出す。
- ・ 長崎県出身の芸術家の作品を展示する（北村西望氏彫刻等）

★ 港に近いので海や風などを意識した設備

- ・ 壁面全面ガラス張りを作り景色（長崎の港や船や海）が見える
- ・ 屋上に市民が気軽に出入りできる広場的スペースを設置（潮風を感じながらランチが楽しめるスペースなど）

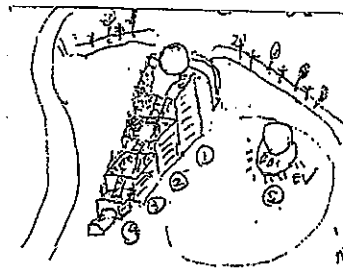
★ 県民と職員の距離感がぐっと縮まる造り

（以前、社会科見学で県庁を見学させていただいた時の経験から）各課の壁を一部ガラス張りにして中で仕事をしている様子が見学者ら来庁者にもわかるような工夫をしてほしい。



②～③について

- ① 省エネ：福岡アクロスのようなビル屋上緑化により北側のコンクリートの熱風を防ぐ。海中ヒートポンプシステムの利用により、冷暖房の省エネ化をはかる。更に太陽光ファイバーシステムの利用により、光熱費の節約をはかる。各階の屋上に制震（耐震対策）としてまた雨水利用としてのバイオ利用の雨水屋上タンクを置く。更に地下に温水、淡水、飲料水用の地下タンクを置く。南面に、太陽光発電、太陽熱温水器壁を置き、省資源とする。
- ② 防災・防犯館を配置
- ③ 防災・情報システム館を配置（医療側などへの情報配送のスピード化）
- ④ 玄関に交流館を配置
- ⑤ まちづくりの起点にてのホテル、民家、商店などの生ゴミを集積し、高温メタン発酵システムを設備し燃料電池・マイクロタービンより、EV、県庁への電力システムを施設化し、残った肥料は、市民農園などに売却。また送電システムに配電等を利用してはどうだろうか？



- ・ 海に近いので建物の塩害対策は必ずいる。
- ・ 台風や地震により、建物内の人が避難することがないように県警本部も入るので強く造る。特に南の強い風対策として窓は丈夫なものを採用する。
- ・ バイアフリーは必ずいる。身体障害者の方の為のオストメイトも設置。
- ・ 防災の面で屋上ベリポート設置、かつ、新県庁横に船が接岸できるように岸壁整備。
- ・ 新長崎駅と新県庁とを結ぶ連絡通路。
- ・ 屋上には緑地化と太陽光発電設備。更に雨水タンクを設置し、雨水をトイレの

水に利用（節水対策）

- ・ 県民が気兼ねなく立ち寄れる広場や港が見える展望室もほしい。
- ・ 将来の海面上昇に対応できるように建てる。

北極の氷が溶けてもアルキメデスの原理により海面上昇することはないが、陸地の氷床が溶ける又は温度が高くなることによる海水の膨張により影響が出るかもしれない。

- ・ 新県庁舎建設予定地上空の一部は、電波法による電波通路保護空域（テレビ長崎本社→稲佐山送信所を結ぶマイクロ回線の通り道）である。これを避けて、第1フレネルゾーンの範囲内は障害物がないように建設する。工事の期間中も、この空間に建設機械や重機のアーム等が入らないよう注意が必要。もし電波の通路を遮断すると放送が止まることになる。この件は過去に報告書を提出しているはずなので、詳しくはこれを参照してほしい。

079 ■ 60代 男性 （長崎市）

道州制導入とは、温暖化に根ざす諸懸案事項や財政再建の解決策と位置づけられるものと考えられます。

地球規模の気象変動は、このままの状態では、決して避けることはできず、対策が遅れると、最悪の事態を迎えることも予測されます。取りかかりが遅かった産業界もこのことを察知し、経営方針を正にこの方向に展開させ始めました。行政の施策を補うの観ありです。

温暖化の本質が、産業活動における最終廃棄の集積の結果であるとするなら、これまでの諸活動を見直す必要があります。それは、単に過去の事柄を反省するだけでなく、事業であれば計画から施行、完成以降の結果や効果を、一元的かつ多方面との関連性の中から、精査・分析し、効率的に今後の対策に生かしていく必要があります。

来るべき道州制は、情報化システムを一段と進め、電子情報化社会をより安全に、より効率よく、技術開発や知識の展開がなされ、施策に生かせる様に体制が整えられる必要があると考えます。この情報の基盤として、統計数値の整備をまず提案します。統計は、事業等の成果の結果であり、次の事業のステップになるものであり、これを、全県下同一基準で画した二次元地図に整備するとなら、#を地図位置番号とし、このキーを操作の単位化し、情報・データの集合・分散等の処理によって、各種事業施策の分析・解析等への道が開けると考えます。

さらに往復文書の送受信（交付申請－完了報告の前後を含む手続き）を一貫して

管理し、現地検討・指導・調査の時間を充実させる。

同時に統計書を、この文書管理から直接編集できる様にするすれば、統計処理・作表により多様な表現ができる可能性が生じると考えます。

080 ■ 40代 男性 (大阪府)

① 新庁舎に求めるもの ②新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備
<はじめに>

この企画書は、大学卒業後大都市（東京・大阪）から地方（鹿児島県奄美大島）まで、仕事に伴い居住経験をし、その土地土地のメリット・デメリット体験を踏まえた上で、大阪からではありますが、長崎の経済発展を切に願い提案企画を作成させていただきました。

<企画目的>

- ① 長崎県の経済発展を達成すること。
- ② 長崎県を優秀な環境問題対策自治体として確立すること。

<企画コンセプト>

- ・ 長崎県庁の屋上で、長崎県の観光及び長崎特産品を最大限にアピールし、長崎県の経済発展を達成すること。（最終的には長崎県の財源増収を目指します。）
- ・ 世界的規模で環境問題対策が必要な今日、長崎県を日本の優秀な環境問題対策自治体として、国内外にアピールすること。
- ・ 雇用促進対策にまでこの企画を連動させ、長崎県民のお役に立つこと。
- ・ この企画の具現化により、子供たちに夢を与えること。

<具体的な内容>

- ・ 新長崎県庁の屋上に、誰でもが気軽に見学できる空間を確保します。
- ・ 新長崎県庁の屋上には、経済発展を目的とするゾーンと優秀な環境問題対策自治体をアピールするゾーンを建設します。その2つのゾーンを最大限効果的に、観光客、長崎県民・国内外の自治体にアピールすることで、新長崎県庁の重要アピールスポットを目指します。（県庁の目玉的存在とし、観光スポットおよび優秀な環境問題対策自治体を国内外に認知していただきます。）

(経済発展ゾーンについて)

- ・ 経済発展ゾーンは、観光アピールコーナーと地域アピールコーナーに分かれています。観光アピールコーナーは、「龍馬伝」による坂本龍馬人気を全面的に打ち出します。坂本龍馬の等身大パネルを中心に、亀山社中のメンバーの等身大パネルにより、まずは観光客を喜ばせます。(坂本龍馬やメンバーおよび亀山社中の説明プレートも付け、県庁屋上にて観光スポットにしていきます。)
- ・ 龍馬たちのパネルの横には、各地域(長崎市、佐世保市、島原市、諫早市、大村市、五島市、対馬市、壱岐市、雲仙市、南島原市、平戸市、西海市、松浦市など)の専用コーナーが並び、それぞれ各市の企画課が知恵を絞って、観光と特産品をアピールいたします。(各市の企画担当者が競い合うので、活気のあるすばらしいコーナーになると確信しています。)
- ・ どの各市の企画課が一番良い印象だったかアンケートを帰り際書いていただくと思います。

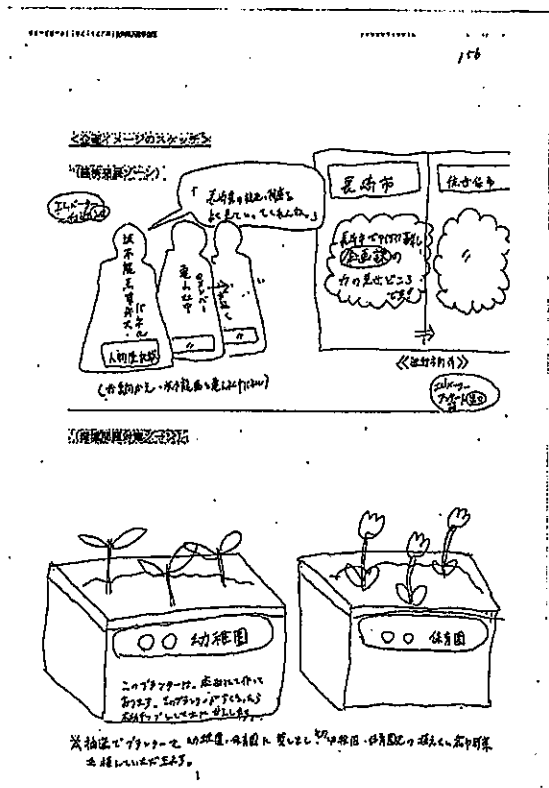
以上、経済発展ゾーンにつきましては、このような方法で、観光客を呼び込み、長崎県の特産品の販売拡大を目指し、最終的には長崎県経済の発展に伴う長崎県財源の増収にまで結び付けるための企画です。

(優秀な環境問題対策自治体をアピールするゾーンについて)

- ・ 優秀な環境問題対策自治体をアピールするゾーンは、屋上菜園コーナーになっています。屋上に20の家庭菜園プランターを設置し、抽選により長崎県庁近辺の幼稚園もしくは保育園に無料で1つのプランター使用の許可をします。
- ・ そのプランターには、それぞれの園の子供たちが、植えたい野菜や花を決めてもらい、園の行事として、園児に種まきから収穫を経験させます。
子供たちにも、夢を与える行事となる筈です。
- ・ その行事は、テレビ・新聞などに取りあげていただき、長崎県が優秀な環境問題対策自治であることをアピールします。(※大阪市役所で平松市長が実践済み)
- ・ また、雇用対策として、そのプランターは、商品価値のない廃材や板切れで作成されており、第3セクターの雇用対策事業となるようにします。

(※当 NPO にて、廃材プランター事業の計画中)

以上、優秀な環境問題対策自治体をアピールするゾーンにつきましては、雇用対策・子供たちの教育まで踏まえて、長崎県が優秀な環境問題対策自治であることをアピールする為の企画となっています。



081 ■ 30代 男性 (雲仙市)

- (1) 新庁舎に求めるもの(あるべき姿などの基本理念)
 - ・事務執行のための執務場所という機能を重視した整備も必要だが、県民に開かれた場所となるような整備も必要。県庁舎が「特別な建物」ではなく、「より身近な建物」になることが望ましい。県民にとって県庁舎が「より身近な建物」になることで、県政に県民の声が反映されやすくなるのではと考える。
- (2) 新庁舎が備えるべき機能としての施設や設備等
 - ・(1)の内容を踏まえると、以下の施設や設備が必要ではないかと考える。
 - 来庁舎用駐車場の拡張(敷地確保が難しければ立体駐車場の建設を)
 - 玄関ロビーの拡張
 - すべての人が快適に利用できる施設のユニバーサルデザイン化
 - 県政情報センターの拡張
 - 県民が利用可能なホール等の設置
- (3) その他(景観への配慮など)
 - ・基本的には事務執行のための執務場所である。景観を損なわなければ、別段こだわ

る必要はないと思う。

082 ■ 30代 女性 (大阪府)

●新庁舎には例えば、育児教室や子供が遊べる施設などを併設したらどうかと思います。

県庁に用事がある子供連れの母子が平日に用事ついでに、あそこで遊んで帰ろうかと思えるような場所があればいいと思います。確か、新築する駅の近くはそのような場所がなかったと思います。

たぶん以前や他の庁舎にも似たようなものがあるかもしれませんが、イメージとしては古臭く、狭く、閉じられた感じがしてあまり利用する気にはなれません。

それとスペースに余裕があれば、ちょっとした芝生の広場(中庭的な)ものを作りそこで母子が昼食の弁当などを広げられるようにするのはどうでしょうか。

県庁というと何か用事がないといかないところで、しかも子供やその母親などは縁遠いところなのでそのような場所があれば行きたいと思います。簡単ですが以上です。

083 ■ 30代 男性 (大阪府)

●新庁舎の屋上に太陽電池で敷き詰めたり、風力発電などを用いる程度は自家発電できるようにしたらいいのではと思います。加えて公車は地元の企業である三菱の電気自動車を採用し積極的にエコを推進する庁舎にしたらいいのではないかと思います。後は、海の近くなので海水を淡水化する設備をつくり、防災林の水や、若干の飲料水への補給などできたらと思います。

このように新庁舎にはエネルギー循環型の設備を備えたらいいのではないかと思います。

084 ■ 20代 女性 (佐世保市)

① 県庁舎整備基本構想について

新県庁建設予定地の目の前の長崎駅は、これから新幹線の開通によって利用者も増加すると思います。そのため、私は新しい県庁にシンボルを求めます。そうして、長崎にやってきた人々に長崎を強くアピールできるのではないのでしょうか。

085 ■ 20代 女性 (佐世保市)

県庁舎整備基本構想について、私のアイデアとしては、県庁舎の外観を長崎らしいものにして欲しいと思いました。県庁というものは、県の中のシンボルとも言えるので、外観を長崎らしいものにして長崎市民や、観光で長崎に来た人たちに長崎とはこのような場所であると印象を与えられるようにして欲しいです。具体的には東アジアの建築様式を取り入れたり、長崎新地中華街を匂わすような建物がいいと思いました。長崎ならではの異国情緒あふれるまちを作って頂きたいです。